


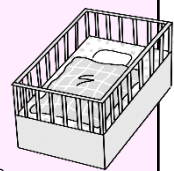




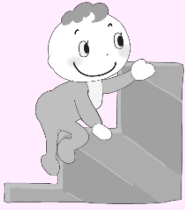

# 赤ちゃんの発達と事故予防

月齢	0か月～	2か月～	4か月～
運動	首すわり～寝返り		
発達の目安 	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔を見つめる</li> <li>音に反応し 声を出す</li> <li>「アー」「ウー」 などの声出し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あやすと笑う</li> <li>物を見つめる</li> <li>昼夜逆転しやすい</li> </ul>	<b>体重が出生時の2倍に</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ほほえみ返す</li> <li>物を目で追いかける</li> <li>触れたものをつかむ、 口へ持っていく</li> <li>昼夜の区別がつき始 める</li> </ul>
遊び	<b>●あやして遊ぼう！</b> 顔を見合わせ声をかけましょう。音の出るおもちゃであやしたり、簡単な歌を歌ってあげるのもよいでしょう		
この時期に大切なこと	<b>★腹ばいの効果</b>  首、手足、背中など全身の筋肉の育ちを促し、首のすわり、寝返り、おすわり、はいはい、つかまり立ちなど全ての姿勢の基本になります！2か月頃頃から機嫌が良いときに、はらばいの姿勢を経験しましょう。授乳直後や柔らかいものの上で行うことは避け、必ず目を離さないようにしましょう。		
この時期に起きやすい事故の例と予防策	<b>●物を払ったりなどの回避動作ができない</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>吐いたものが逆流し窒息。柔らかい布団での窒息。</li> <li>熱すぎるミルクで口の中を火傷。</li> <li>ベッドと壁の隙間などに挟まれる。</li> <li>タバコやコインなどを口に運ぶことによる誤嚥・誤飲</li> </ul> <b>●動きが多くなると転落が急増</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>抱っこひも装着時やひもがゆるんでいることでの転落。</li> <li>手足を動かして少しずつ移動しベッドの上等から転落。</li> <li>寝返りによるベッドやソファからの転落。抱っこからの転落。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>授乳後はげっぷをさせてから横にしましょう。</li> <li>ハンカチやビニール袋など口や鼻を覆ったり、巻き付いたりするものは赤ちゃんのそばに置かないようにしましょう。</li> <li>マットレス等は硬めに。重たい掛布団は使わないようにしましょう。</li> <li>うつぶせのまま寝かせるときは隣で見守るようにしましょう。</li> <li>2歳になるまでは大人用ベッドやソファではなく、できるだけベビーベッドやベビー布団に寝かせましょう。ベビーベッドを使用する際は柵をあげて使用しましょう。</li> <li>タバコが誤飲の半数を占めます。家庭内では吸わない等の工夫をしましょう。</li> <li>直径39mm以下の物は口に入ります。これより小さなものは手の届かないところに整理しましょう。</li> </ul>		



# 赤ちゃんの発達と事故予防



月齢	7か月～	10か月～
運動	ずり這い～四つ這い～つかまり立ち	
発達のめやす	<b>脳の重さが出生時の2倍へ！</b> ・ 昼間起きている時間が増える ・ 人を見分ける力がつき 人見知りが始まる ・ 手をのばしてつかもうとする、口へ持っていく	・ バイバイ、拍手などのマネをする ・ ちょうだい、どうぞなどできるようになる
遊び	<b>●ハイハイで動き回ろう！</b> 畳、じゅうたん、斜面をハイハイ、マテマテ遊び 	<b>●やりとり、マネっこで遊ぼう</b> チョウダイ、ドウゾ、ナイナイ、バイバイなどの声かけとしぐさをつけて働きかけてあげましょう。
この時期に大切なこと	<b>★お座りをあせらないで！</b> 座らせて前かがみになる時期に長時間座らせると、体軸が十分に発達せず、お尻で移動するようになる子もいます。 <b>●ハイハイの経験をたくさんさせましょう。</b> 自分からたくさん動き回り、遊ぶ経験の積み重ねをすることで全身が鍛えられ、体の筋肉やバランスが育っていきます。	
この時期に起きやすい事故の例と予防策	<b>●すべての物に興味を持ち、何でも触りたがり口に入れる</b> <b>※口径39mm以下(トイレットペーパーの芯が目安)の物は危険</b> ・ 階段、椅子からの転落、頭部打撲 ・ 小さなものやたばこなどの誤飲 ・ 手先などのやけど、切り傷 ・ 浴槽での溺水	
	・ おもちゃの利用時は商品の対象年齢を必ず守りましょう。化粧品、洗剤、薬品、石油ポンプ、電池なども子どもは口に入れます。子どもの手の届かない、見えないところに保管しましょう。 ・ テーブルクロスは子どもがひっぱって卓上の物と一緒に滑り落ちることがあります。使用は避けましょう。 ・ 階段など、転落の可能性がある場所には柵をつけましょう。椅子の上やソファなどで一人で遊ばせないようにしましょう。 ・ 台所には入らないよう注意し、ポットや炊飯器などは手が届かない高さに配置しましょう。アイロンなど高温のものはすぐに片付けましょう。 ・ 入浴後は浴槽の水をぬき、可能な範囲でふたをしましょう。入浴時は子どもから目を離さないようにしましょう。お風呂からあがる際は子どもを先に浴室から出しましょう。子どもが一人で浴室に行くことがないようにしましょう。	
		

相談  
窓口

## 発達や育児に関するご相談

●横浜市旭福祉保健センター こども家庭支援課

045-954-6160【平日8:45～17:15】

## ケガ・病気の時の連絡先

●横浜市救急相談センター 緊急受診できる医療機関や救急車を呼ぶべきかを相談できます。

# 7119または045-232-7119【年中無休・24時間対応】